



## 「創造性豊かな海園・田園・人間都市」へ



高松市長

大西 秀人

人生における最大の選択として、「何を」行うかという「職業の選択」、「誰と」行うかという「結婚の選択」とともに、「どこで」行うかという「居住地の選択」も同等以上に重要である、と最近読んだ「クリエイティブ都市論」<sup>(注)</sup>は書き出しています。果たして、居住地の選択に当たって、多くの人々が候補にあげるような魅力がある都市とは、どんな都市なのでしょう。そして、日本の都市の中で、居心地の良い場所として高松市の名が多く上がるためには、どのようなヴィジョンを描いていけば良いのでしょうか。

工業社会における都市問題を克服しながら発展してきた多くの都市も、工業社会の終焉と脱工業社会への歴史の転換の中で苦悩し、疲弊しかかっています。都市をいかに再生していくべきなのか。全国、いや全世界の諸都市並びにその関係者が思い悩んでいるところです。その答えの一つの示唆を与えてくれるのが、この「クリエイティブ（創造性）」という概念だと私は思っています。

この本を私が手にとったのは、高松市が香川県、香川大学と共同で行った「広域行政時代における拠点地域のあり方に関する調査研究」で、「クリエイティブ（創造性）」がテーマとされ、現代アートや瀬戸内海の魅力を生かして、高松で創造的な若い人材の育成と集積を図り、これを基に産業の創出・革新やまちづくりを目指すべきことが報告されていたからでした。この報告書では、併せて、田園都市圏（都心と郊外）に加えて、海園都市圏（都心と島）という生活の質を重視した新たなスタイルの生活圏を想定して、「海園都市構想」というものを進めるべきとの提言もなされています。さらに、そこに人間的な温かさを持ち、人間中心の都市運営を行うという考え方を入れ込み、示したものが表題に掲げる「創造性豊かな海園・田園・人間都市」という未来図です。そして、この新しい高松都市圏ヴィジョンを実現するために、私は、「文化、教育、環境の復興」を図っていく必要があると考えています。

そのような話をある記者にしますと、即座に「ルネサンスですね。」と言われました。そう、少し大げさではありますが、脱工業社会の新しい時代にふさわしく、多くの人が住みたいと思う「創造性豊かな海園・田園・人間都市」へ向けて、高松版都市再生（ルネサンス）に取り組んでまいりたいと思います。

(注)「クリエイティブ都市論」(リチャード・フロリダ著 ダイアモンド社)